こぶし通信

Vol.52
2021.1

■理事長コラム
原点にたち戻って

■就労継続B型　ここに NEWS
家庭の温かみ、身近に感じられる夕食を目指して

■就労継続B型　ここに・すたぁと NEWS
ここすた休日開所

■居宅支援 NEWS
変わらない日常に想いを込めて

■生活介護 NEWS
秋を満喫 ～活動班ピクニック編～

▌相談室の窓から

▌Topix

▌防護服作りでひろがるつながり

▌事務だより

■こッからの商品が買えるお店を紹介します⑩
株式会社ファーマシー木のうた

■すまいるNEWS
すまいる開所セレモニー
すまいるが第一歩を歩みだしました

▌Go to…新しいこッから・ここすた旅行の形

▌第44次 きょうされん国会署名のお願い

■表紙解説

■編集後記

社会福祉法人こぶしの会
〒630-8424　奈良市古市町529-4
電話 0742-63-6765　FAX 0742-63-6766　発行責任者/ 坂下 伸一
e-mail/kokkara@kokkara.jp　http://kokkara.jp/

Column

原点にたち戻って
～新型コロナウイルス感染拡大の下で～

社会福祉法人こぶしの会　理事長　　坂 下 伸 一

昨年2020年は、新型コロナウイルスで始まり、新型コロナウイルスで終わったと言って過言ではない年でした。そして、今もそれは続いています。

こぶしの会もコロナウイルスに振りまわされた一年でした。一ヶ月におよぶ休所、後援会・家族会総会やつながり祭、こっから祭等の行事中止…。また、感染対策・対応やそのためのマニュアルづくり、そして何よりも寂しいことは、感染拡大のために、通所できない仲間がいることです。ただし、これは、本人や家族の問題ではありません。通所する上での心配や不安は、よく理解できるものだといえます。

困難な中で大切にしたいこと

感染拡大という困難な中で、私たちが、今一番大切にしなければならないことの一つは、こぶしの会の設立時や現在進めていることの原点にたち戻り、その意味を確認し、これからの法人運営や取組みに生かしていくことではないかと思います。

こぶしの会が大事にしてきた原点には「どんな障害があっても働くことができる。ぼくも働きたいんだ」「障害があっても、自分で選ぶことができるくらしを」などがあります。

「どんな障害があっても働けるのだ」という原点

ここでは、藤井克徳・星川安之著「障害者とともに働く」（岩波ジュニア新書）を参考にして、障害のある人が働くということについて、考えてみます。

障害があろうとなかろうと、働くことは、日本国憲法第27条で保障されている権利であることは言うまでもありません。その上で、新書の中では、「人がなぜ働くのか」について、次の４つの視点から書かれています。

・生活の糧を得ること
・生きがいや働きがいを得て、自分らしさを発揮すること
・社会とつながること
・健康の維持や生活リズムを確立すること

この視点から考えると、障害のある人が働くことにどのような意味があるのでしょうか。こぶしの会の仲間からみてみましょう。

Ａさん「今日は給料日や。ウフ…」と満面の笑み。
職員　「何か買うの？」
Ａさん「ないしょ」

給料日やボーナス日には、こうした会話が、必ず交わされます。本当にわずかな金額だけれど、自分で働き、自分のものを買う。お金を稼ぐという当たり前のことが、仲間にとって、大きな意味をもっているように思います。

仕事に取組んでいるBさんやCさんに声をかけると
Bさん「今日は、昼から販売に出かける。たくさん買ってくれる。お客さんが待ってはんねん」
Cさん「あと少しで、内職終わるねん。今日は、みんなしてしまわなあかん」
と、返事をしてくれます。

仕事の中で、役割を果たしたり、みんなの役に立ったりすることで、仲間に自信と誇りがうまれています。また、注文したり、買ってくれたりする人、他の人とつながっていると実感することができています。

Dさんは、なかなか通所できない、家に籠ってしまうことが少なくない仲間です。自分の気持ちを立て直したいと思っていても、なかなかできないでいます。でも、Dさんが事業所にくると、仲間と一緒に仕事して過ごすことができます。楽しそうな様子もみせてくれます。

通所し、働くことが仲間の中に生活リズムをつくり、生活を支える基本となっていきます。

このように、働くこと、ひとつとってみても、お金を稼ぐという意味だけでなく、仲間にとって、自分らしさを発揮することができ、生命と健康を支える基盤となっていると強く感じます。

新しい年、新たな取組みを

新型コロナウイルス感染が広がる中で、今まであたりまえであった日常が変化していくのではないかといわれます。しかし、だからこそ「障害のある人が働く」ということを含め、こぶしの会がこれまで大切にしてきた原点を改めて見つめなおし、新たな取組みを進めて行かなければならないのだと思います。

終わりになりましたが、あけましておめでとうございます。新しい年、「仲間を主人公に」という原点を踏まえ、法人運営に取組んでいきますので、引き続きご支援、ご協力をお願いします。

家庭の温かみ、身近に感じられる夕食を目指して

ここにでは、今年度の新しい取り組みとしてグループホームで生活されている方々の夕食を作ることになりました。４月よりぐうぐうハウス、10月よりすまいるも加わり現在では１日14～17食の夕食をここにで担当しています。新しい調理スタッフも迎え、調理のベテランの方々に助言をいただきながらスタートすることができました。

グループホームで生活しているここにの仲間も一緒に夕食を作っています。どんなものが好きなのか、どんな形が食べやすいのかなどを聞きながら作ることができたり、グループホームに帰って「私も一緒に作ったよ」と話している、ということを聞いたりできるのも嬉しいストーリーだと感じています。

今では、野菜を洗う・切る・炒める・煮るなどの工程をすべて仲間が担い、１品を仕上げることもできるようになってきました。調理の体制が整い、仲間がじっくりと調理と向き合うことができるようになり「自分以外の食べる人の事を想像しながら作る」という今までより一歩先を意識して作ることができるようになっていると思います。

また、グループホームの担当のスタッフとも定期的に会議の場を設けながら、食事内容や量について調整していっています。

これからも仲間との会話やスタッフ間の会議などで意見交換をしながら、家庭の温かみのある夕食を目指していきたいと思います。　（文責　松田加奈）

ここすた休日開所

「ここに」「すたぁと」では、休日を安心して楽しく過ごせるように、「ここに」の施設内で活動をしています。

今年度は「コーヒーで染物体験」「オリジナルマイカップづくり」などに挑戦してきました。

昨年までは、「お出かけをたのしむ」「食をたのしむ」「季節を楽しむ」などいろいろなところに飛び出して「経験したことのないこと」や「自分が好きなことをみんなと楽しむ」などの企画を通して休日を満喫していました。

「なにかモノづくりもしてみたいな…」という仲間の声もありましたが、今年初めて「施設内で過ごす休日」を考え、「今こそチャンス」と知恵を絞って楽しんでいます。

10月は、「ここに」で生け花教室を開いている先生にお越しいただき、「フラワーアレンジメント」を行いました。 ハロウィンらしく、ガーベラ、菊、吾亦紅（われもこう）を自由に生けていきました。ほかの仲間がどんな風に生けているのか見に行ったり、お互いの作品を見せ合い「すごく上手！」「かわいい！」とたたえあう姿が印象的でした。

きっと、おうちの玄関やテーブルの上で、気持ちを明るく彩っていることだと思います。

こぶし通信の読者の皆様。「クラフトやモノづくりで、こんなことを教えられますよ！」という方がいらっしゃいましたら、ぜひ、お声掛けください。

（文責：島　耕治）

居宅 News

Caring home

ぐうぐうハウス・ひまわり

変わらない日常に想いを込めて

コロナウイルスが再び猛威を振るっています。皆様は如何お過ごしでしょうか。グループホームにおいても検温、手洗いやアルコール消毒、出掛ける際のマスク着用を行い、出来るだけの予防をさせていただいております。またみんなで集まって行うお出掛け、ヘルパーやお誕生会も極力最小限にしています。当初はマスクをするのに抵抗があった仲間も今ではすっかり受け入れてくれています。これ程体調管理にシビアに取り組むことなどなかったように思います。

「ソーシャルディスタンス」「三密を避ける」などのキーワードがこの１年弱の間にすっかり定着しました。みんなも辛抱しながら日々を過ごしています。そんな中でバーベキューに映画にカラオケ、更に一泊旅行へいきたいなと夢が広がりますが、同時に今はそういうことが出来ないということを感じている仲間たちが逞しいと思います。だからこそ日々の暮らしの中で、仲間やスタッフで話に花を咲かせてみたり、仲間同士様子をみてホッとしたり、ちょっかいをかけたり、ちょっとしたことに拘ってみたり。変わらない日常に新しい日常をどう取り入れていくか、人と人が楽しくなるときは距離感が近い方が良いに決まっています。社会的距離を取ることが大事とされる今は今まで以上の想いを込めて、見守っていきたいなと思います。

コロナが落ち着いたら、仲間と羽根を伸ばして好き放題に遊びたい。仲間とスタッフの自分を見つめる良い期間と今は捉えて…　　（文責　赤尾信也）

生活介護 News

Life nursing

こっから

秋を満喫　～活動班ピクニック編～

朝の会の中で、「どこか行きたいところや、やりたいことはありますか？」の問いかけに帰ってきた答えは、「マクドナルド」、「外食」、「公園でおにぎりを食べる」などなど…。

今年はコロナウイルスへの感染対策から外食などの活動はいったんお休みしていることもあり、できそうなことは、「公園でおにぎりを食べる」だな！と秋のお楽しみ企画を決めました。この機会に、自分のたべるおにぎりを握ろうということで、当日はお米15合を炊きました。三角に握るのはやはり難しく、まるーいおにぎりがぞくぞくと出来上がっていきます。自分でつくったおにぎりに名前シールをはりつけ、完成です。

行き先は、木津にある上人ケ平遺跡公園。広い芝生と屋根付きのベンチがある気持ちの良い公園です。行く道中で買ったおかず弁当も持って、あっという間に到着。この日は1日ゆっくり過ごすことにし、昼食のあとは、散歩やボール遊び、シートやベンチでのんびりと各自が思い思いに楽しみました。リラックスしたみんなの顔がとても印象的でした。

いつかは、外食やショッピングなど、以前のように当たり前に行ける世の中に戻ることを祈りつつ、活動班には、自分のやりたいことや気持ちをうまく表現できない仲間もいます。その仲間に寄り添い、どんなことなら笑顔が見られるかなと日々模索することも忘れずにいたいなと思います。　　（文責　杉原郁美）

そうだんしつの窓から

こぶしの会相談支援センター　小針　康子

エッセンシャルワークが排除・不寛容の対象ではなく、社会になくてはならない労働分野として評価されるように

年末年始にかけて、県内2か所の障害者施設でクラスターが発生しました。一般就労している人たちの少なくない職場でも陽性者がでたり、相談活動の中でコロナ感染の大波を感じています。主たる介護者である家族が感染した時どうするか、一人暮らしの障害者が感染したらだれがどう対応するか…今は通常の相談活動だけでなく、感染時の対応フロー確認や、事前準備シートの作成が加わりました。

災害相当の判断としてもっと命の安全を最優先して。医療の危機が迫って大阪市や旭川市では自衛隊派遣が要請されました。これは「災害該当」と判断されたということです。昨夏からこの事態は予測されていたのに医療分野の改善はすすまず、長きにわたって保健所を半減させてきたつけもこの事態を引き起こしました。厳しい医療体制の下では「命の選別」が行われる危険性が高まります。障害のある人たちがその対象にならないか、とても心配です。国の予備費10兆円～観光や飲食分野も大切ですが、「災害に該当」する判断であれば、国民の命を守るために、医療を含めたエッセンシャルワーク（社会に不可欠な労働分野・医療や介護、消防、ごみ収集など）にもっと活用してほしい、と切に思います。

差し迫る願いはＰＣＲ検査と抗原検査。

国は8、9、11月と通達を出し、高齢者や障害者施設への検査実施を要請しました。奈良県も県下の福祉施設職員64,000人を対象に20億円を予算化。でもそれには条件があり回数も制限されています。また、障害者の現場でクラスターを回避するには、無症状者からの感染を抑えこむことも重要で、東京世田谷区や北九州市では一斉検査の成果が報道されています。安心して安全に支援するためには、無償で、定期的に、何回でも検査できるなど、現場感覚での具体化が必要です。

Topix

この間コロナ禍により、なかなか大きな取り組みができませんが、日常的な活動の様子を皆さんにお伝えしたいと思います。

8月

【水に触れる取り組み】

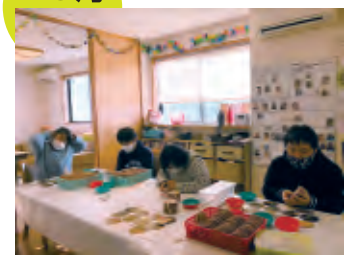
暑すぎて散歩に行けない代わりに水遊びを企画しました。みんなイキイキとした表情で水と触れ合っていました。

9月

【くるみボタン】

紙すきと活動班の仲間が一緒に創作活動としてくるみボタンを作りました。沢山の布のご提供ありがとうございます!

10月



【鹿せんべい】

コロナウィルスの影響で一時休止でしたが、10月から再開されました。体が作業を覚えていたようでブランクなんてつゆ知らず。

11月

【アルミ缶回収】

地域のアルミ缶を短期間ですが回収させていただきました。収集場所を数か所回り収集場所を数か所回り、アルミ缶の入った袋を1つ1つ集めました。

12月

【クリスマス会】

毎年恒例のクリスマス会。今年は3密を避けた形で、テラスをステージ代わりにし人数を分散させそれぞれ練習を重ねに重ねた出し物で楽しみました。

【ケーキ作り】

元ケーキ職人さんのレクチャーを受けてホールケーキを作りました。味のほうはもちろんですが見た目もきれいなケーキに仕上がりました。

防護服作りでひろがるつながり

【新しい出会いとつながり】

この間のコロナウィルス感染拡大によって出来なくなったことがたくさんあります。

その反対に、この大変な時期だからこそ生まれた新たなつながりもあります。

「新型コロナウィルス感染症拡大防止活動基金」

https://readyfor.jp/projects/covid19-relief-fundの助成を受け、奈良市内でいち早く認知症の方とそのご家族、それを支える小規模の事業所や団体にマスクやアルコールなどの物資を届け、物心両面でサポートをしてきた「凪の絆プロジェクト」との出会いも、そのひとつです。

今回お互いの活動の理念に共感し、高齢と障害の分野の枠を越えてこれからの新たな地域福祉のネットワークをめざそうと、活動を共にすることになりました。

障害のある仲間が防護服を作成し、それをプロジェクトが買い取ることで、仲間の仕事づくりになります。若年認知症の方々を支える「きずなや」さんと「こぶしの会」が拠点となり、すでに1,000着の防護服を作り終え、アルコールやマスクと併せて独自では備蓄が困難な認知症や障害者支援に関わる小規模事業所や団体、個人に必要に応じて無償で提供する仕組みをつくりました。

【勇気をもらいました】

7月の第2波の時には、近隣府県の高齢者支援施設から緊急のSOSがあり、防護グッズ（その中には仲間が作った防護服300着も）を急遽送ることになりました。

その後に届いたお礼のメッセージです。

今届きました。たくさん本当にありがとうございます。

中を見させていただいて、涙溢れました。施設の職員も感動して、同じく涙している人もいてて。本当にいくら感謝の言葉を伝えても足りないです。まずはしっかり収束させて、入居者さん職員が安心して過ごしてもらえる環境にします。

障害のある仲間のみなさんが作ってくれた防護服に勇気をもらいました。

それを身に着けて気合を入れながら看護にあたります!!

【みんなで支え合って】

12月に入ってからは障害者施設からの要請で200着の防護服を提供しました。施設での感染は私たちにとっても他人ごとではなく、インフルエンザの流行期にも突入し、改めて身が引き締まる思いです。看護にあたるスタッフさんは、場合によっては長期間の泊まり込みとなります。大変な緊張の中で仲間の思いが込もった防護服が少しでも役に立つことを願っています。こんな時だからこそ今は色んな人たちと支え合って、いつかコロナが収束したときに、気づけばこれまで想像もできなかったネットワークの輪がひろがっていた…そんな風景を思い描きながらみんなで乗り切っていきたいと思います。

（文責　古木一夫）

高齢者施設から
お礼とともに
送られて
来た写真

事務だより　AIその先にあるもの

現在こぶしの会には４名の事務員がいます。

これまでは事業所等で分かれて事務業務を行ってまいりましたが、限られた事務機能で効率的に業務を進められる組織に変革させるため、支援センター棟の２階へ集約が進められました。これからはより一層効率的、かつ統一性を図り業務を進めてまいりたいと思います。

ところで、ここ数年のテクノロジーの発展により求められる仕事が大きく変わってきました。今後訪れるであろうAI時代においては事務職がなくなるとも言われています。AIの方が人よりミスが少なく、マニュアル化した仕事が得意、365日・24時間稼働できます。こうなると人は勝てないのではと考えてしまいます。でもAIは、まったくの白紙からアイデアを生み出すことができません。そして会話の中で相手の心のひだに触れたり、相手の反応を見ながら言葉遣いに気を付けたり、相手の機嫌をうかがったり、そういう心のひだを読むなど、そうした判断はAIには難しいです。

いつか仕事がなくなってしまい、AIに取って代わられてしまうのではなく、マニュアル化された業務はAIが行い、新しいことを発想したり、人間らしい心のひだに触れるコミュニケーションや理屈では割り切れないことへの対応など、人間ならではの仕事は人が行う。AI時代には人との関わりがより大事になるのではないかと感じています。どんな時代が来ても、人と人とが顔を合わせてコミュニケーションをとること、人と人との繋がりの大切さが必要なのだと感じています。事務としても数字や書類のその先にいる人に寄り添えるような仕事をしていきたいと思います。

（文責　住田智香子）

こッからの商品が買える10お店を紹介します

～株式会社 ファーマシー 木のうた～

今回ご紹介する「こッからの商品が買えるお店」は、「ファーマシー木のうた」さんです。毎週、JR奈良駅前店と西の京店でこッからのパンやとうふを販売していただいています。

ドラッグストアというと大規模な全国チェーン展開をイメージしますが、「木のうた」さんは1907年の創業以来、ずっと地域に根差して発展されてきた奈良の地元企業です。

出会いは令和元年のとある勉強会で、ご一緒したのがきっかけでした。その後こッからに見学に来ていただいて、そこで一生懸命に働く仲間の姿に共感したこと。そして仲間たちがつくるパンやお豆腐を商品として評価いただいたことが取り扱いの決め手となったとのことでした。

「福祉への協力や社会貢献ではなく、信頼できるパートナーとして、こッからの商品の良さをお客様に伝え、販売することが営利企業としての私たちの役割です」というお言葉に喜びと改めて責任を感じます。

何か私たちにご注文はありますか？との問いかけに、特にはないけれど、コロナ禍でパンやとうふの製造が中止になっていた時期、こッからの商品はいつ買えるようになるの？と多くのお客様から聞かれた時には困ったと嬉しいエピソードを教えてくださいました。

西の京店では、毎回たくさんのご予約をいただいています。このご縁に感謝し、これからも一緒に楽しい取り組みが出来ればと願っています。

株式会社 ファーマシー 木のうた

■**ドラッグストア木のうたJR奈良駅前店**
住所／〒630-8246奈良市油阪地方町8-1　☎0742-26-7740

■**ドラッグストア木のうた西の京店**
住所／〒630-8044奈良市六条西1-1-50　☎0742-45-5873

■ホームページ／https//:kinouta.co.jp

■こッから商品の販売日時／
月曜日（JR奈良駅前店）　11時～17時
金曜日（西の京店）　11時30分～17時

すまいる
開所セレモニー

約４年間かけて計画に取り組んできた新しいグループ「すまいる」が令和２年９月に開所となりました。

「すまいる」は男性５名、女性５名が１、２Ｆのユニットごとに生活し、４床のショートステイを併設するグループホームです。社会福祉法人こぶしの会としては初めての自己所有建物によるグループホームでもあります。今回入居する10名の入居者は初めてグループホームに入居される方ですので、当面は自宅からのスムーズな生活移行を目標に支援を実施しています。

９月28日には開所式を執り行い、（コロナ禍でもありますので、小規模な集まりとさせてもらいました。）関係者の皆様に感謝を述べさせていただき、竣工のご報告をさせていただきました。開所式では、法人、なかま、ご家族、地域の方、建設に携わっていただいた設計、施工の業者の方、それぞれのお立場から「すまいる」の完成への思いについてなどお言葉をいだきました。

ご出席の皆様それぞれの〝「すまいる」について〟を聞かせていただく中で、改めて、この「すまいる」は様々なお立場の方にとって「わたしたちのグループホーム」であって、思いがこめられているという事を強く感じました。

改めまして「すまいる」完成に様々な形でご協力いただきました皆様に感謝いたします。

また、このグループホーム建設計画は実はまだ半分が完了した段階でありまして、第２期計画があります。完成した「すまいる」へのご支援とともに、第２期建設計画に変わらぬご支援とご協力をよろしくお願いします。

（文責　藤井浩司）

すまいるが第一歩を歩みだしました

新しいグループホームすまいるが遂に完成致しました。本当に皆様のご協力と温かい手厚いご支援で新築の大きなグループホームが建てられまして改めまして御礼申し上げます。

新築のグループホームということで今現在（1月上旬）におきましても、木の香りがほんのりするような清潔感がございます。トイレも大きめのトイレと普通の大きさのトイレが男女とも２つずつありまして、トイレに行きたいときに使用中なんてことも軽減されています。お風呂のスペースも大きく、お湯が溜まるのも早いものですので、お湯の入れ替えもスムーズです。また夕方16時～21時までと朝7時～9時30分まではスタッフ1人とパートスタッフ1人の2人体制で、この近くの地域からもすまいるの仕事に協力して下さるパートさんもいらっしゃいます。

入居利用されている方々も最初からすんなりと慣れた調子でもうずっと暮らしているような仲間、毎日緊張感とドキドキワクワク感を孕みながら来てくれている仲間など様々です。仲間の暮らし方やリズムなども本当に少しずつですが、分かってきたりこういう感じが良いのかなと思ったら違ったり…毎日がトライ＆エラーの連続ですが、仲間のことが良く分かって、そしてスタッフのこともよく知ってもらえるようなそんな関係作りを長い時間をかけてゆっくりと築いていけたらいいなと思います。

つい先日男女ともに誕生日の仲間が居たのでささやかながらのケーキと、リビングを仲間たちで飾り付け、歌を歌いお祝いしました。「おめでとうー！」と声援も飛び、温もりあるひとときで少し仲間とスタッフも含めて小さな絆が出来た感じがしました。木の香りに仲間たちの生活感や質感をプラスして沢山のすまいるに囲まれますように、1つずつ1つずつですが日常を積み重ねて行きたいなと思います。そしてゆっくり地域の方々とともに歩んでいけますように…。今後も優しく温かく見守って頂けますと幸いです。（文責　赤尾信也）

Go to…～新しいこッから・ここすた旅行の形～

滋賀のアグリパーク竜王

紙すき班

滋賀のアグリパーク竜王に行ってきました。
「うさぎはいるかなぁ？」「BBQどんなお肉かなぁ？」と行きのバスからみんな楽しみで仕方がない様子♪
お昼ご飯はBBQ！天気も良く、なんといってもお腹いっぱいにやわらか～い近江牛を堪能し、大満足。仲間の顔もほころびます。その後は、動物ふれあい広場で馬やヤギにエサやりをしたり、動物たちと写真を撮ったり、食後にジェラートを食べたりとたくさん楽しむことができました。
帰る頃には、「来年の旅行はどこ行こう？」という話に（笑）
久しぶりに遠くまで出かけみんなリフレッシュすることができました。

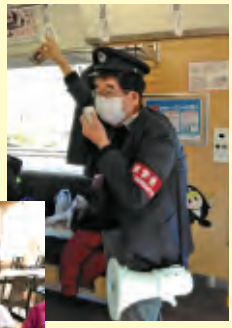
グランピング　ツアー

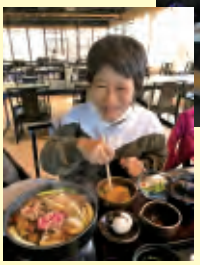
とうふ工房

とうふ工房は滋賀県のキャンプ場へバーベキューを楽しみに行きました。
大きなてるてる坊主を2週間前からみんなで用意したにも関わらず当日はなんと雨、雨、雨！
でも、そんなことでとうふ工房のみんなはへこたれません。なぜならバーベキューだからです!! 肉、にく、肉、野菜の順番にお腹いっぱい食べました。とてもオシャレなグランピングテントで休憩をしてみんなで「はいチーズ」。
みんなで過ごせたとても良い時間となりました。

信楽に行ってきました

ここすた





陶芸で有名な街、信楽に行ってきました。
信楽駅に近づくにつれたくさんの大小さまざまなタヌキの置物が！誰が一番に次のタヌキを見つけられるか競うように「あ、タヌキ！」と指さしていきました。
お昼は豪華なすき焼き！おなか一杯になったところで信楽高原鉄道の貸し切り電車に乗りました。
旧国鉄時代の貴重な（本物の！）車掌服と帽子を着てハンドマイクで車掌さんになり切ったり、昔の切符切りを使いながら、切符の拝見に回ったり。
今年度初めてのお出かけ休日開所に大満足でした。

ロッジ舞洲 BBQ の旅

パン工房・パンの部屋

2020年パン工房・パンの部屋の日帰り旅行は、ロッジ舞洲でBBQを楽しみました。
現地には、海岸と緑あふれるBBQ広場。海なし県民お決まりの『海やぁ！海やぁ！』コール。炭に火をおこし『お肉！お肉！』と言いながら、すでに口いっぱいに頬張り、笑顔もいっぱい。
前日の天気予報は、雷マークつきの降水率100％でしたが、パン工房の集団に雨雲も雷雲も勝てなかったようです。帰りのバスに全員が乗り込んだ時に、辛抱切れての大雨が。思いっきり楽しめた2020年の日帰り旅行となりました。

信貴山日帰りツアー

活動班

旅行のテーマは、「バス（バスガイドさん付きの）」、「おいしいごはん」ということで、信貴山へ行くことに。当日は朝から信貴山の朝護孫子寺を参拝し紅葉の中、散策を楽しみました。そして、信貴山観光ホテルへ戻りごちそうタイム。次から次へと出てくる食事にみんな目をキラキラさせていたのが印象的です。
日帰りツアーは、あっという間に終わり、お土産を購入して帰路に。“奈良のお土産を買う”というのもなかなかない経験ですよね。コロナ禍でまた違った楽しみも発見できた日帰り旅行でした。

第44次 きょうされん 国会請願署名のお願い

昨年末から5月にかけて、国会請願署名に取り組んできました。

新型コロナウイルス拡大という初めての事態に、障害のある人も職員も家族も感染拡大の恐怖とたたかいながら、「障害のある人の行き場をなくすわけにはいかない」「こんな時だからこそ、私たちの思いをしっかり届けよう」と粘り強く国会請願署名・募金にとりくんできました。

今年は、国会議員会館の議員事務所を訪問して、国会請願の紹介議員になってもらえるよう依頼する国会請願行動は中止せざるを得ませんでしたが、党派を超えた248人の国会議員の皆様に紹介議員となっていただくことができました。

衆議院・参議院ともに不採択という結果は大変残念でしたが、私たちは引き続き障害のある人の立場に立った要望項目で国会請願を続けていきたいと思います。

現在も、コロナ禍で多くの人と対話する街頭署名や直接お会いしての訴えなどが難しいですが、1筆でも多くの署名を国会に届けたいと思います。

例年にも増してのご協力をよろしくお願いいたします。

表・紙・解・説

今回の表紙は、こぶしの会の年賀状コンクール今年の最優秀賞の作品と作者の方です。今年はとても独創的でキュートな牛の絵が選ばれました。皆さんのお宅にも届きましたでしょうか?毎年素敵な作品が接戦を繰り広げています。来年もお楽しみに!

きょうされんの刊行物である、なかまニュース12月号国会請願署名の特集の記事の中で「署名を集めるときの気持ちを聞いてみました!」というコーナーでこっからの松本さんのコメントが掲載されました。奈良県、こっからを代表して、全国の請願運動に取り組んでいる人たちに署名に取り組むアドバイスとして松本さんの思いが伝えられました。

編集後記

『手段と目的を見誤らない』私たちが大切にしたいと思っている事のひとつです。こぶしの会の活動目的は、「どんなに重い障害があっても誰もが安心して豊かに働き暮らせる社会」をめざすこと。そのために「仲間が主人公」を合言葉に始まった無認可作業所は、24時間365日の生活を支える8つの事業に広がりました。上述の目的（仲間や家族の願い）を実現するための手段として、拡がってきたそれぞれの施設ですが、度重なる制度改定や福祉業界における人材不足、重度高齢化などによるニーズや環境の変化への対応などに追われ、気が付けば施設をどう経営していくかに精一杯になってしまう。手段として始めたことが、いつの間にか目的になってしまう現実が油断すればいろんな場面で起こってきます。

昔、県内の仲間の平均給料額を1万円から2万円に引き上げる「工賃倍増計画」というものが県の障害福祉施策の重要課題に掲げられた時期がありました。各施設は競うように売れる商品づくりをめざし、県は企業コンサルを施設に派遣する研修などを企画しました。当時、売れる商品パッケージやチラシ作りなどを学びながら感じていた違和感は、何のために仲間の給料を2倍にするのかということがすっかり抜け落ちているような気がしたからでした。

昨年は新型コロナウィルスへの対応に追われた1年でした。この状況が収まるまでは何もしないという声をいろんな他の施設から聞いていましたし実際こぶしの会も年間で予定していたイベントは全て中止していました。そんな中、感染の波が少し小康状態となっていた10月頃に職員と仲間から日帰り旅行の企画が持ち上がりました。毎年のような全員での旅行は無理だとして、せめて各班ごとの小規模な人数で実現したいとの強い希望でした。リスクを少しでも回避するために、片道1時間の範囲内でと消極的な条件を提示する経営側と、それに対して厳しい暮らしの中で頑張ってきた仲間と一緒に楽しい思い出をつくりたいと、家族への説明や感染対策の工夫を重ねて企画を練り直す現場とのやりとりの結果は9ページにある通りです。そしてここでも……コロナウィルスの感染予防対策は仲間の健康と笑顔を守るための手段であって、それ自体が目的になってはいけない……改めて職員の頑張りと仲間の笑顔から学んだのでした(何も起きなくて良かったぁと心の中でほっとしながら)

※10月に事務関係の引っ越しを行いました。支援センター棟2階に法人の事務機能が集約され、相談支援事業も移転してきました。かわりに居宅支援関係の事務機能は「すまいる」2階の事務所に移りました。

（古木一夫）